

地域自慢

中川地区の魅力再発見

坂東市立
中川小学校



私たちの中川小学校は、県南西部に位置しています。学区の西側を利根川が流れ、自然豊かな町です。学校のシンボル「ノダフジ（藤の木）」は、市の天然記念物に指定され、毎年春にはきれいな紫色の花を咲かせます。樹齢は百十年を超え、校歌の中で「紫匂う藤の花 やわくかすめる丘の上 心やさしく美しく」と歌われています。

それでは、私たちが総合的な学習の時間（5年生）や生活科の学習の町探検活動（2年生）を通して見つけた地域の魅力を紹介します。



<ぼくたち・わたしたちの利根川（5年生）>

毎年12月に行われる持久走大会（「走ろう大会」）で、全員で利根川の土手を走ります。その利根川について調べました。

私たちの町

「利根川」の名前の由来

- アイヌ語で沼や湖のように広くて、大きな川という意味の言葉「トンナイ」から。
 - 等禰直（トネノアタイ）、椎根津彦（シイネ<=トネ>ツヒコ）と言う人の名前から呼ばれるようになった。
- などいくつかの説があります。



①第1機場



③第一機場
取水口

「利根川」と「坂東太郎」

古くは、相模国の足柄山・箱根山以东を坂東と呼んでいました。利根川は坂東一の河川であり、日本の河川の長男として「坂東太郎」と呼ばれていました。



⑤利根川の土手

利根川に関する数字

- 幹川流路延長
 - ・ 322km（日本2位）
- 流域面積
 - ・ 1684km²（日本1位）



⑦小山遊園



②走ろう大会の
スタート位置



④決壊口跡



⑥利根川の流れ



⑧河川敷



利根川の歴史

江戸時代以前は、現在の東京湾に注いでいましたが、たび重なる洪水から江戸を守るため徳川家康によって流れを千葉県銚子に流れ込む、東に替えました。（これを、利根川の東遷と言います。）

利根川の東遷の目的

- ・ 新田開発を推進するため。
- ・ 舟運で東北との交通輸送体系を確立するため。



利根川に生息する魚

数多くの水生生物が生息しています。ソウギョ、ハクレンという利根川だけで自然繁殖する魚も生息し、サケの遡上も見られるとのこと。



利根川に主な被害

歴史に残る最大級のカスリーン台風が昭和22年に日本列島をおそい、利根川も250mに渡り決壊し、私たちの町にも大きな被害をもたらしました。その決壊口に碑が建っていました

- ・ 家屋流失倒壊2万3千戸
- ・ 死者、行方不明者1100人

<町探検活動（2年生）>

【ぶどう園（3支部）】



3支部には、ブドウ畑がいっぱいあります。50年も前から栽培され、9月にはたくさんのブドウが実ります。

【地藏院（5支部）】

5支部には、地藏院というお寺があります。中川地区には、他には、香取神社や西光院などもあります。貝塚、古墳も見られます。



【畑（8・9支部）】



8支部や9支部には、畑があります。季節によって、ネギやレタス、白菜などのたくさんの種類の野菜が作られています。

【田（10支部）】

10支部には、田んぼが広がっています。季節によってさまざまな色の変化が見られ、季節の移り変わりを感じられます。

